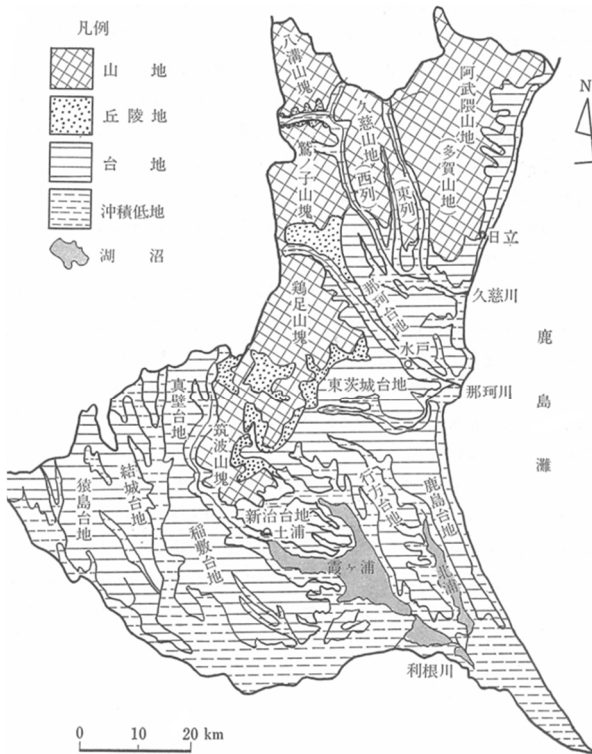


大子町の地勢と気象

大子町は、茨城県の県北地域にあり、最も北に位置する。北は福島県(棚倉町、矢祭町)に、東は常陸太田市に、南は常陸大宮市に、西は栃木県(大田原市、那珂川町)に接している。町内を南北に久慈川が、町の中央部を東西に押川が流れている。久慈川は、茨城県、福島県、栃木県の三県にまたがる八溝山を水源とする一級河川(国管理)で、日立市と東海村の境を経て太平洋に注ぐ。押川は、栃木県大田原市を水源とする一級河川(県管理)で、大子町で久慈川と合流する。

地形は、町の大半が山地で、久慈川を境に久慈山地(阿武隈高地南部)と八溝山地に分断される。更に、八溝山地は押川を境に鷲ノ子山塊と八溝山塊に分断される。久慈山地の主な山としては、町の南東部(常陸太田市との境)に、男体山(標高 654m)、白木山(標高 616m)、高崎山(標高 594m)などがある。鷲ノ子山塊の主な山としては、町の南西部に尺丈山(標高 511m)や南山(標高 511m)などがある。八溝山塊の主な山としては、町の北西部(福島県棚倉町、栃木県大田原市との境)に県内最高峰の八溝山(1,022m)があり、その南には、高笹山(標高 922m)や大神宮山(標高 746m)及び花瓶山(標高 692m)や見張山(標高 679m)などがある。

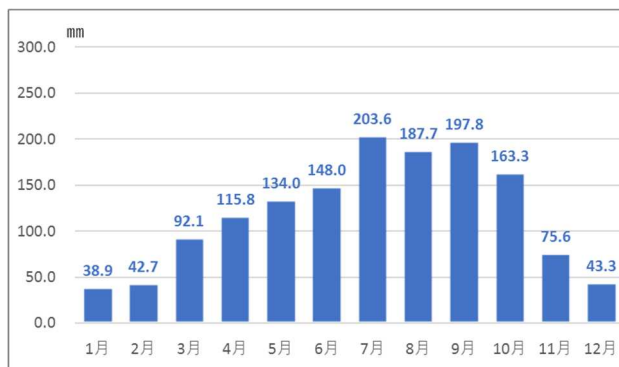


茨城県の地形区分(出典:茨城県 地学のガイド;1977, コロナ社)

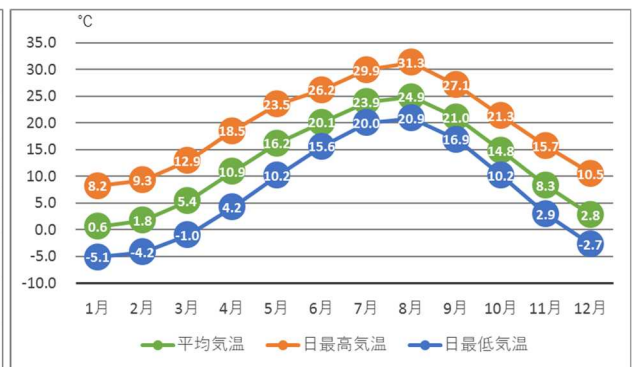
気候は、太平洋側気候で、山岳地域では山岳気候の特徴を併せ持つ。夏季は、太平洋高気圧から吹き出す南よりの風の影響で高温多湿となり雨も降りやすい。冬季は、乾いた北西の季節風が吹き、晴天の日が多く、降雪は少ない。山岳地域では、複雑な地形の影響を受けるため、気候の地域差が著しい。

降水は、冬は少なく、春から秋にかけて梅雨前線や秋雨前線、台風の影響などで徐々に多くなる。年降水量の平年値(大子)は 1451.3 mmである。

気温は、夏に 35°C 以上の猛暑、冬に -15°C 以下となることもあるが、平年の気温(大子)は、夏季の日最高気温が 31.3°C、冬季の日最低気温が -5.1°Cで、年平均気温は 12.6°Cである。



大子の降水(月ごとの平年値) 1991年~2020年の統計値



大子の気温(月ごとの平年値) 1991年~2020年の統計値

大子の平年値・極値はこちらから

https://www.data.jma.go.jp/stats/etm/index.php?prec_no=40&block_no=0316&year=&month=&day=&view=